

2023 年度事業報告について

特定非営利活動法人 きょうと介護保険にかかわる会

1. 特定非営利活動の概要

2023年度は、特定非営利活動法人きょうと介護保険にかかわる会（以下「かかわる会」という）の理念・目的を達成するため、以下の活動を行いました。

- (1) オンブズマン養成事業では、介護保険制度や高齢者問題に関する基礎的なものから専門性の高いものまで幅広くテーマを選び、年間9回の研修会を実施しました。
- (2) 「介護・福祉サービス第三者評価事業」では、「伴走者」としての姿勢を大切にしつつ14件の評価活動を行いました。また、調査者や審査員による新しい評価基準の研鑽や、調査報酬改訂にともなうマニュアルの刷新も行いました。
- (3) 広報・啓発事業では、全8ページの会報を隔月で6回発行しました。活動報告や介護保険関連の情報、会員の投稿など内容の充実をはかるとともに、配布先の拡充をめざしました。また、メーリングリストを整備することで、会員に最新の介護関連情報をメール配信できるようになりました。
- (4) 調査・研究事業として、「第9期京都市民長寿すこやかプラン」の情報収集に努めました。
- (5) 「よりよい介護をつくる市民ネットワーク」の事務局を担いシンポジウムを継続開催したほか、「第9期京都市民長寿すこやかプラン」へのパブリックコメント啓発活動に力を注ぎました。

2. オンブズマン養成事業（研修会等開催事業）

(1) 計画の達成度

- ①介護保険制度のオンブズマン養成事業としての研修会事業は、市民目線に立った諸活動ができる専門性の高い人材育成を目指し取り組みました。
- ②研修会は、会員の要望に基づき、介護保険制度や高齢者問題に関する基礎的な問題や地域や高齢者のかかえる課題についていろんな角度から取り上げました。基礎講座として「デイサービス見学」「在宅医療」、介護保険の課題として「2024年度からの介護保険改定の課題」「訪問介護事業のこれから」を取り上げました。また会員にアンケート調査を行い「終のすみかはどうする」について考える機会を持ちました。トピックスとして、「京都にケアラー支援条例をつくろう」「警察OBが運営する認知症サポートサービス」を取り上げました。
- ③研修会では、前年度と同様に講演のあと会員や一般参加者が小グループに分かれて意見交換を行いました。講演を聴いた後に感想を言い合ったり意見交換したりすることは、会員同士の交流にもなり、また一般参加者の入会に繋がるきっかけともなっています。テーマによっては質問用紙を用意し、講師に答えてもらう形の研修会も実施しました。
- ④多くの一般市民の参加を得られるよう、内容や広報にも工夫して取り組みました。毎回チラシを作成し、ひと・まち交流館京都の館内ほかに各所にチラシを配架しています。京都新聞まちかど欄、ふれあい欄には毎回掲載を依頼、京都市民活動総合センターのポータルサイトへも掲載依頼しています。研修会の月平均参加者数は昨年度とほぼ同じです。



(2) 2023年度研修会一覧

回数	実施日	テーマ	講師	会場	参加者数
第126回	4月10日	野外研修会 デイサービスセンター 「晴耕雨読舎」 代表のお話と見学	晴耕雨読舎 代表 石神 洋一さん	高槻市 原	19名
総会記念 講演	5月20日	おせっかい先生の寄り添う医療 と介護～在宅医療・介護の最前 線で～	渡辺西賀茂診療所 院長 渡辺 康介さん	ひと・まち 交流館 京都	69名
第127回	6月17日	京都に「ケアラー支援条例」をつ くろう！	立命館大学 名誉教授 津止 正敏さん	ひと・まち 交流館 京都	33名
第128回	7月20日	訪問診療のあれこれ	ひがし医院 院長 東 伸郎さん	ひと・まち 交流館 京都	42名
第129回	9月16日	どうする介護サービス！ ～来年4月改定の介護保険をめ ぐって～	認知症の人と家族 の会 前代表理事 鈴木 森夫さん	ひと・まち 交流館 京都	34名
第130回	10月22日	訪問介護のこれからのあり方を 考える	京都福祉サービス 協会 理事長 宮路 博さん	ひと・まち 交流館 京都	36名
主催： よりよい介 護をつくる 市民ネット ワーク	11月25日	だまっていたらあかん！ 第8回シンポジウム 私たちの求める「長寿すこやか プラン」～安心して暮らせる京都 にするために～ ○講演 ○パネルディスカッション	講演 佛敎大学名誉教授 浜岡 政好さん 5団体からパネリスト (* 当会からは中川 慶子副理事長)	ひと・まち交 流館 京都 大会議室	71名
第131回	1月21日	「マラソンと私とウエルネス」 +スクエアステップ 会員交流会	久田 由美さん (会員)	ひと・まち 交流館 京都	21名
第132回	2月24日	警察OBが運営する認知症サポ ートサービス～認知症高齢者の 保護の現状と解決に向けて～	一般社団法人 つなぎ 代表理事 中邨 よし子さん	ひと・まち 交流館 京都	26名
第133回	3月23日	“終のすみか”はどうしたいです か ～会員のアンケート調査 から考えるよりよい“入居施設” とは～	中川 慶子さん (当会 副理事長)	ひと・まち 交流館 京都	29名

3. 介護・福祉サービス第三者評価事業

(1) 介護・福祉サービス第三者評価事業の実施状況

2023年度は介護分野での評価項目及び調査料の大幅な改定がありました。年度初めに改定に伴うフォローアップ研修が支援機構により実施され、調査者12名が研修を修了しました。受診件数は介護分野12件、福祉(高齢)1件、保育1件で合計14件でした。今年度の特徴は介護分野12件中6件が訪問系の事業所であったこと。調査料の値上げの影響もあったと思われます。受診事業所は、リピーターが多いのですが、中には支援機構のHPを調べて、「貴会の評価レポートが温かかったので受診を決めた」という新規事業所があったことは嬉しい限りです。事業所の「伴走者」として、今後とも取り組んで行かなければならないと改めて思います。

2023年度第三者評価事業 実施一覧(2024年3月31日現在)

No.	法人名	事業所名	主な受診事業	訪問調査日	調査者数	審査日
1	社会福祉法人 清和園	特別養護老人ホーム 城南ホーム	介護老人福祉施設	7月25日(火)	3名	9月13日(水)
2	社会福祉法人 みその会	在宅事業施設ケアリング デイサービスセンター 希繫	通所介護	10月18日(水)	3名	12月8日(金)
3	医療法人社団 葵会	葵会総合ケアステーション	訪問看護	12月20日(水)	2名	2月22日(木)
4	有限会社 清水の園サービス	清水の園デイサービス センター	通所介護	7月26日(水)	2名	9月13日(水)
5	あかり株式会社	ケアサービスあかり	訪問介護	11月10日(金)	2名	1月19日(金)
6	社会福祉法人 成相山青嵐荘	居宅介護支援事業所 青嵐荘	居宅介護支援	11月29日(水)	2名	1月30日(火)
7	社会福祉法人 不動園	特別養護老人ホーム 天ヶ瀬苑	介護老人福祉施設	10月23日(月)	3名	12月6日(水)
8	社会福祉法人 京都福祉サービス協会	太秦事務所	訪問介護	11月28日(火)	2名	1月30日(火)
9	社会福祉法人 フジの会	みやびのその 居宅介護支援センター	居宅介護支援	12月22日(金)	2名	3月15日(金)
10	社会福祉法人木津川市 社会福祉協議会	ケアセンター ハッピーコスモス	通所介護	12月1日(金)	3名	2月20日(火)
11	社会福祉法人 京都福祉サービス協会	伏見事務所	訪問介護	12月13日(水)	2名	2月26日(月)
12	社会福祉法人 希望福祉会	さくらキッズ保育園	保育所	2月13日(火)	3名	4月上旬
13	社会福祉法人 宇治明星園	養護老人ホーム	養護老人ホーム	3月26日(火)	3名	5月中旬
14	社会福祉法人 宇治明星園	短期入所	短期入所生活介護	3月26日(火)	3名	5月中旬

(2) 調査者のスキルアップ

- ①調査項目改定に伴う内部研修を実施しました(7/20)。調査者4名、審査委員2名、会員3名の参加がありました。参加できなかった調査者には研修内容を配信し、周知に努めました。
- ②調査リーダーの養成についての取り組みはできませんでした。

(3) 人材の確保

- ①新規評価調査者養成研修を1名の会員が修了され、調査者に加わりましたが、計画の2名増員は未達に終わりました。
- ②第三者評価調査者登録者数(2024年3月31日現在)

介護	26人
障害	17人
保育	11人
児童館	4人

- ③審査会委員登録者数 11人

(4) 調査報酬改定およびマニュアルの改訂

- ①介護分野調査料の改定に伴い、介護分野調査者報酬を見直しました。また、三評調査マニュアルも改訂しました。

※ 調査者報酬額のアップについて(一例) 8,000円 → 12,000円

(5) 第三者評価応募事業所の拡大

- ①第三者評価事業の広報は、京都介護・福祉サービス第三者評価等支援機構を通して周知をはかるのみで、独自の広報はできませんでした。
- ②第三者評価事業の運営体制については、関連作業を洗い直した上で、運営責任者と事務担当者の2名体制で進めました。試行錯誤する場面もありましたが、都度改善しながら進めました。経理面においては事務局の協力を得ながら進めました。

(6) 介護・福祉サービス第三者評価機関の認定を更新(2024年度から3年間有効)

4. 調査・研究事業

2023年度は、京都市高齢者施策推進協議会で「第9期京都市民長寿すこやかプラン」が検討された時期でした。第9期プランから従来の「高齢者保健福祉計画」と「介護保険事業計画」に加えて「認知症施策推進計画」と「成年後見制度利用促進計画」が一体的に策定され、さらに第9期プランの対象期間には、地域包括ケアシステムの構築期限とされている「2025年」が含まれていることもあり、京都市高齢者施策推進協議会の傍聴を含めて、積極的に情報収集に努めました。

また、傍聴で得た検討内容を会報の記事として報告しました。しかし、調査・研究グループ会議参加者の関心課題との関連の中で取り上げて研究を行うには至りませんでした。

5. 広報・啓発事業

(1) 会報の発行

①概要

- ・発行回数：年6回(偶数月)
- ・体裁・ページ数：A4版8ページ(130号のみ10ページ)
- ・発行部数：(129～131号)400部 (132号)550部 (133号～)450部

- ・配布先：会員、介護・福祉サービス第三者評価受診事業所、京都市内地域包括支援センター（61カ所）、向日市・長岡京市・大山崎町・宇治市地域包括支援センター（計16カ所）、関係行政機関や関係団体、当会の活動に指導・助言をいただいている方、ひと・まち交流館 京都内の市民活動総合センター、福祉ボランティアセンターの展示書架等。
- ・ネットワーク等の活動の際に持参するなど運用数が増えたので133号より印刷数を400部から450部に増やしました。11月の「だまっていたらあかん」シンポジウムで配布するため132号は550部印刷しました。
- ・会報のメール配信を希望する会員には郵送をやめることにしました。134号の時点で8名とわずかですが、郵送料の低減につながっています。

②編集会議

毎月、広報グループによる編集会議を開催しました。奇数月の編集会議では前号の反省点を話し合い、また次号の編集企画について意見交換して、原稿依頼の内容を確認しました。

発刊月（偶数月）の編集会議では印刷原稿についての疑問点や間違いを指摘し、修正を確認しました。編集会議で意見を出し合うことで、より魅力のある内容と見やすい体裁を実現できました。

③掲載内容

当会活動の柱の一つである第三者評価について理解を深めるための記事をシリーズで取り上げました。また2023年度は2024年4月からの第9期介護保険事業計画立案の時期でもありました。会報としても厚生労働省での審議状況について「介護保険ホットnews」で取り上げたり、京都市民長寿すこやかプランについてはよりよい介護をつくる市民ネットワークの活動を紹介することで問題提起をすることができました。

④会報についてのアンケートの実施

会報の内容や運用方法について改善を図るため、134号（2024年2月発行）に同封する形でアンケートを実施しました。2月末日〆切で39名の方から回答を得て、その結果を135号に掲載しました

■アンケートの結果（抜粋）

3-2 今後取り上げてほしい、強化してほしい企画・内容についてお聞きします。 複数回答可		
①介護保険の基礎知識	17	
②介護サービス事業所の情報	19	
③介護に関する相談コーナー	14	
④介護に関する本の紹介	12	
⑤介護に関する映画やイベントの紹介	9	
⑥読者の声欄	13	
⑦その他	4	

3-1D シリーズ私の介護体験についての感想があればお書きください。
経験談を率直に話して頂いているので、参考にしたいと思っています。
生の声、貴重な体験談が興味深いです。
介護体験もいろいろで今後の参考にしたいと思って読んでいる
もう少し長くても良いと思います。
貴重な体験談を聞かせていただき、教えられます。
夫々の人生観、介護観、苦勞の体験が分かり興味深いです
心の栄養と励みになっています。
3-1E 会員リレーえっせいについての感想があればお書きください。
かかわる会の皆さんの課題や生き方がわかり、楽しく読んでいます。
どんな方々がおられ、どんなことを考えておられるかがわかり興味津々です。
色々な人がいて興味深い
え～会員にこんな方おられたんだ～とか、あの方こんなことされてたんだ！と楽しみに読んでいます
毎回楽しい気持ちで読んでいる。書いた人に対して読後のフォローが必要。
近親感を持って拝見させて頂いております。

■各号のページ建てと主な内容

号	134	133	132	131	130	129
発行日	2024.02.02	2023.12.8	2023.10.6	2023.8.4	2023.6.2	2023.4.7
1頁	羽田空港衝突事故と民主主義について(梶宏)／目次／	「あなた任せ」しなかった建部さんの死(梶宏)／目次／	防衛費よりも社会保障費の充実を!(梶宏)／目次／	「京都市長物語」を本にした私なりの理由(梶宏)／目次／	2023年度通常総会が開催されました(中川)／目次	どうしても言い残したい(梶宏)／目次／総会案内
2頁	緊急企画 介護施設・事業所におけるBCP策定について(吉川)	10月研修会報告(正木)	9月研修会報告(冬木)	第9期京都市民長寿すこやかプラン策定スタート(梶政彦)	かかわる会組織・業務担当図／退任・就任挨拶	2月研修会報告(正木)
3頁					会の組織と事業を考える試み(正木)	
4頁	よりよい介護をつくる市民ネットワークからの報告(萩原)	だまってたらあかん!シンポ報告(萩原)	寄稿 第9期京都市民長寿すこやかプラン策定、ただいま進行中!(梶政彦)	特集 全国でも珍しい京都府における第三者評価の取り組み(吉川)	総会記念講演報告(小中)	3月研修会報告(吉川)
5頁	介護保険Hot news(小栗)	だまってたらあかん!シンポ報告(萩原)/第4回京都市高推協傍聴報告(梶政彦)	だまってたらあかん第8回シンポ案内	6月研修会報告(中川)	総会記念講演アンケート/懇親会報告	京都市に提言し、懇談しました 市民ネットワーク報告(梶政彦)
6頁	1月研修会報告(梶政彦)	第三者評価で大切にしている3つのポイント(笠原)	より実態に即した評価に 第三者評価評価項目改訂内容の紹介(吉川)	7月研修会報告(萩原)	特集:第三者評価を振り返る(吉川)	介護保険Hot News(小栗)／介護事業者の声(萩原)
7頁	私の介護体験(森本)／2月・3月研修会案内	私の介護体験(小中)／1月・2月研修会案内	私の介護体験(冬木)／10月研修会案内	私の介護体験(吉川)／9月・10月研修会案内	特集:第三者評価を振り返る(吉川)／梶理事長「京都市長物語」出版	私の介護体験(栗山)／4月研修会・5月総会記念講演案内
8頁	会員リレーえっせい(館石捷二)／編集後記(栗山)／シルバー川柳	会員リレーえっせい(森昭夫)／編集後記(正木)／シルバー川柳	会員リレーえっせい(加藤順子)／編集後記(小栗)／シルバー川柳	会員リレーえっせい(辻井一恵)／編集後記(冬木)／シルバー川柳	4月研修会報告(冬木)	会員リレーえっせい(板井幸子)／編集後記(竹山)／シルバー川柳
9頁					私の介護体験(梶政彦)／6月・7月研修会案内	
10頁					会員リレーえっせい(蒲田尚史)／編集後記(河原)／シルバー川柳	

※主な内容のうち、研修会については「2.オンブズマン養成事業」をご覧ください。

(2) ホームページ・SNSの管理

2019年9月より <https://npokaigo.or.jp> のドメインでスタートした会の公式ホームページに研修会の予告、報告、会報の発行について掲載しました。WordPress という仕組みを使っているため複数担当者での編集が可能ですが、一定の研修が必要であることから担当者の複数化は実現

しませんでした。当会の Facebook ページも開設していますが、今のところ情報の更新が余りできていないのが課題です。

(3) 研修会の広報について

各回の研修会チラシの印刷原稿を作成し、外注印刷したチラシを会報と共に発送したり、ひと・まち交流館に配架しました。研修会チラシの裏に会への入会方法を掲載する計画については実現しませんでした。また京都市福祉ボランティアセンターや長寿すこやかセンターの情報欄への掲載はスケジュール的にも難しく、掲載できませんでした。

(4) 啓発活動の具体化

会員のメーリングリスト登録者は3月末時点で72名、会員の約8割にあたります。会員メーリングリストを使って会報や研修会チラシを送信したり、介護保険改定をめぐる状況についても最新情報をメール配信しました。資料請求者を広く募ったり、メールマガジンの可能性を検討することはできず、会員以外への啓発活動については課題を残しました。

6. 関係諸団体との連携強化

今年度は、「よりよい介護をつくる市民ネットワーク」の事務局を担いました。2016年度に構成5団体と始めたシンポジウム「だまっていたらあかん」は、第8回を数えますが、今年度は「第9期京都市民長寿すこやかプラン」をテーマとして2023年11月25日にひと・まち交流館京都の大会議室で開催しました。それに先立つ約2週間、市民活動総合センター前の交流コーナーでシンポジウムの告知展示を行いました。

また、2024年1月17日から31日までの2週間は同所に「第9期 京都市民長寿すこやかプラン」についての「パブリックコメント啓発コーナー」を設置しました。

その他、「よりよい介護をつくる市民ネットワーク」構成5団体を始め他団体や事業所との連携に努めました。

7. 会の運営（事務局）

(1) 会員の状況

会員数は、前年度末が91名。この1年の退会者が3名ありましたが、新規入会者が6名あり、2024年3月末現在の会員入会数は94名となりました。研修会の参加を契機に入会する方や、会員の紹介で入会する方で増加しています。

(2) 事務の効率化と定型化

事務職員の退職があった6月以降、事務分担の見直しをはかり各事業部門ごとに事務を完結する体制に移行しました。またその機会を捉えて書類整理と出納管理の手順を整えました。

(3) 会員の交流と参画

当会の事務局を気軽に訪ねてもらいたいと考え、8月下旬に「事務所清掃&ビアパーティ」を企画しました。また、コロナ禍が明けて総会后と新年研修会の後に、懇親会を再開することができました。

会員の意見や要望を収集するため会員入会の申請フォームを改善しましたが、実際の運用は2024年度からとなります。

(4) 理事会等の開催

理事会は毎月1回（原則第1木曜日）定期開催し、研修会や第三者評価事業、会報、調査研究等の日々の運営について協議していますが、中長期的な課題の検討はあまり進んでいません。

(5) その他

- ・大阪ガス福祉財団「高齢者福祉助成」への助成申請が採択されました。（14万7千円）
- ・1月研修時に、能登半島地震に対する募金を行い、集まった27,898円を京都新聞社会福祉事業団に寄託しました。